

横浜市政記者 横浜ラジオ・テレビ記者 各位

記者発表資料
平成16年8月10日
環境保全局環境管理課
担当課長 鈴木 671-3445

平成15年度の大気汚染状況について

横浜市では、大気環境の状況を把握するため、環境基準が定められている二酸化硫黄、二酸化窒素等の汚染物質について、一般環境大気測定局（以下「一般局」という。）20局、自動車排出ガス測定局（以下「自排局」という。）8局の合計28局で自動測定機による連続測定を継続的に行っています。

また、ベンゼン等の有害大気汚染物質について、毎月、定点測定を行っています。

このたび、平成15年度の測定結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。（測定局一覧は資料編2ページ）

○二酸化硫黄：一般局で測定していますが、環境基準（長期的評価）には昭和55年度から継続して全局で適合しています。しかし、三宅島の噴煙に含まれる二酸化硫黄の影響により、短時間ですが通常時より高めの濃度の発生がみられました。

○二酸化窒素：日平均値の環境基準は 0.06 ppm 以下

一般局20局、自排局8局で測定（ は15年度）

（1）環境基準適合局数について、5年間の推移をみますと、

* 一般局では、15、18、17、19、20（全局）に、

* 自排局では、2、2、2、3、7 になりました。

（2）年平均値（ppm）について、5年間の推移をみますと、

* 一般局では、0.028、0.029、0.028、0.027、0.026 に、

* 自排局では、0.039、0.039、0.040、0.038、0.035 になりました。

（3）1年間で環境基準値（日平均値 0.06 ppm）を超えた日数の割合（%）について、5年間の推移をみますと、

* 一般局では、1.1、0.7、0.7、0.7、0.1 に、

* 自排局では、6.7、5.0、6.5、5.1、1.3 になりました。

全般的に改善を示しています。

○浮遊粒子状物質：日平均値の環境基準は 0.10 mg/m^3 以下

一般局 20 局、自排局 8 局で測定

(は15年度)

- (1) 環境基準適合局数について、5年間の推移をみますと、
- * 一般局では、17、5、19、16、13 に、
 - * 自排局では、4、3、4、3、3 になりました。
- (2) 年平均値 (mg/m^3) について、5年間の推移をみますと、
- * 一般局では、0.031、0.034、0.033、0.031、0.031 に、
 - * 自排局では、0.044、0.045、0.042、0.037、0.035 になりました。
- (3) 1年間で環境基準値 (日平均値 0.10 mg/m^3) を超えた日数の割合 (%) について、5年間の推移をみますと、
- * 一般局では、0.8、1.1、0.4、0.5、0.6 に、
 - * 自排局では、2.3、1.9、1.2、1.0、0.7 になりました。

一般局では環境基準適合局数にバラツキがあり、顕著な改善はみられませんが、自排局では年平均値や環境基準値を超えた日数の割合は減少し、全般的には改善を示しています。

(環境基準については資料編 20 ページ以降に記載しています。)

測定結果の概要

<自動測定機による連続測定>

1 二酸化硫黄 (資料編：3～5 ページ)

- ・昭和 40 年代から進めてきた工場等に対する規制・指導により排出量が大幅に削減され、環境濃度も大きく改善されています。
- ・年平均値は昭和 42 年度をピークに昭和 50 年度にかけて急激に低下し、その後も市内全域にわたって低濃度で推移しています。

(資料編：4、5 ページ)

2 二酸化窒素 (資料編：6～10 ページ)

- ・昭和 50 年代から工場等に対する脱硝装置の設置やガス等の良質燃料への転換により、排出量の削減を図ってきました。また、新車に対する排出ガス規制が強化されてきています。
- ・環境基準には一般局で 20 局、自排局で 7 局が適合しています。

(次表及び資料編：一般局 6 ページ、自排局 9 ページ表 3-3)

二酸化窒素の環境基準適合局数の推移

(適合局数/全局数)

年度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
一般局	9/17	13/19	13/19	13/20	10/20	15/20	18/20	17/20	19/20	20/20
自排局	0/8	1/8	1/8	1/8	0/8	2/8	2/8	2/8	3/8	7/8

- ・年平均値は一般局、自排局ともに横ばい状況で推移していたものが平成11年度にやや改善を示した後、緩やかに改善傾向を示しています。

(資料編：一般局 7、8ページ、自排局 9ページ表3-4、10ページ)

3 浮遊粒子状物質 (資料編：11～15ページ)

・昭和40年代から工場等における集じん機の設置やガス燃料への転換等により、ばいじん排出量の削減を進めてきています。また、自動車からの排出ガスについても改善が図られつつありますが、土壌の舞い上がり、さらにはガス状の大気汚染物質が大気中で浮遊粒子状物質に変化するなど、発生源が多様なこともあり対策が困難な面があります。

- ・環境基準には一般局で13局、自排局で3局が適合しています。

(次表及び資料編：一般局 11ページ、自排局 14ページ表4-3)

浮遊粒子状物質の環境基準適合局数の推移

(適合局数/全局数)

年度	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
一般局	0/17	1/19	2/19	5/20	4/20	17/20	5/20	19/20	16/20	13/20
自排局	0/8	0/8	0/8	0/8	0/8	4/8	3/8	4/8	3/8	3/8

- ・年平均値は一般局は15年度は14年度と同じ、自排局は改善されず、長期的にも改善傾向にあります。

(資料編：一般局 12、13ページ、自排局 14ページ表4-4、15ページ)

4 一酸化炭素 (資料編：16～17ページ)

・一酸化炭素の発生はほとんどが自動車によるもので、昭和40年代後半からの自動車排出ガス規制の効果により、環境濃度は大幅に改善されています。

- ・環境基準には昭和56年度から自排局全局で適合しています。
- ・年平均値は昭和52年度以降低下し、全市的に低濃度で推移しています。

5 光化学オキシダント (資料編：18～19ページ)

・光化学スモッグの指標である光化学オキシダント濃度については、原因物質である炭化水素系物質の蒸発防止や窒素酸化物排出量の削減を図ってきました。

- ・光化学スモッグ注意報の発令回数及び届出被害者数については、昭和50年前後をピークに減少しています。(資料編：19ページ表6-3)
- ・平成15年度は注意報の発令回数は4回で、届出被害者はありませんでした。

(資料編：19ページ表6-2)

- ・なお、本年度は7月31日現在で、注意報の発令回数は8回、届出被害者1名です。
- ・環境基準には14年度と同様、全局が不適合でした。(資料編：18ページ)

<定時期定点測定>

6 有害大気汚染物質

揮発性有機化合物等とダイオキシン類については、連続測定できる測定機がないことから、定期的に定点での測定を継続しています。

(1) 揮発性有機化合物等 (資料編：21ページ)

環境基準又は指針値が設定されているベンゼン等を含め、22種の有害大気汚染物質について、毎月1回の測定を一般局3局、自排局2局で行っています。

- ・環境基準又は指針値が設定されている8物質とも適合しておりました。

(2) ダイオキシン類 (資料編：22ページ 平成16年5月27日発表済)

大気環境中のダイオキシン類については、季節ごとに各区1地点、計18の定点で測定しました。

- ・各地点の年平均値は0.045から0.071 pg-TEQ/m³の範囲内にあり、環境基準(年平均値0.6 pg-TEQ/m³以下)に適合していました。

資料

平成15年度大気環境の状況について

	二酸化硫黄	二酸化窒素	浮遊粒子状物質	一酸化炭素	光化学オキシダント
一般局（20局）	○	○	○		○（19局）
自排局（8局）		○	○	○（5局）	

○印で測定

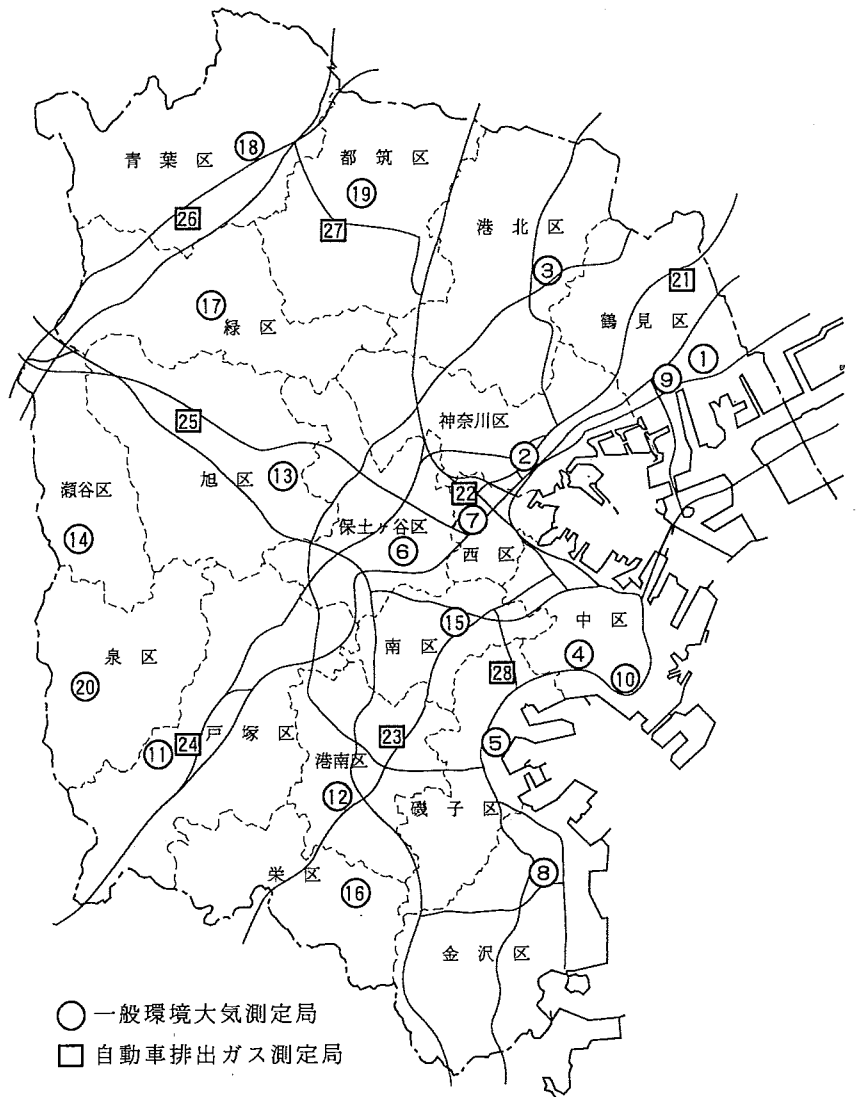


表1 測定局一覧

系統	地点番号	測定局
一般環境大気測定局	1	鶴見区潮田交流プラザ
	2	神奈川区総合庁舎
	3	港北区総合庁舎
	4	中区加曾台
	5	磯子区総合庁舎
	6	保土ヶ谷区桜丘高校
	7	西区平沼小学校
	8	金沢区長浜
	9	鶴見区生麦小学校
	10	中区本牧
	11	戸塚区汲沢小学校
	12	港南区野庭中学校
	13	旭区鶴ヶ峯小学校
	14	瀬谷区南瀬谷小学校
	15	南区横浜商業高校
	16	栄区犬山小学校
	17	緑区三保小学校
	18	青葉区総合庁舎
	19	都筑区総合庁舎
	20	泉区総合庁舎
自動車排出ガス測定局	21	鶴見区下末吉小学校
	22	西区浅間下交差点
	23	港南中学校
	24	戸塚区矢沢交差点
	25	旭区都岡小学校
	26	青葉台
	27	環境都筑工場前
	28	磯子区滝頭

図1 大気常時監視測定局配置図

表2-1 二酸化硫黄年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成15年度

測定局	年平均値	1時間値が 0.1ppmを超 えた時間数	日平均値が 0.04ppmを超 えた日数	日平均値の 2%除外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(時間)	(日)	(ppm)	(適○、否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.008	0	0	0.015	○
神奈川区総合庁舎	0.008	0	0	0.015	○
港北区総合庁舎	0.007	1	0	0.013	○
中区加曽台	0.009	0	0	0.018	○
磯子区総合庁舎	0.008	0	0	0.016	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.006	0	0	0.011	○
西区平沼小学校	0.006	0	0	0.012	○
金沢区長浜	0.006	0	0	0.011	○
鶴見区生麦小学校	0.007	0	0	0.014	○
中区本牧	0.007	0	0	0.014	○
戸塚区汲沢小学校	0.005	0	0	0.009	○
港南区野庭中学校	0.006	1	0	0.011	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.006	0	0	0.011	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.005	0	0	0.010	○
南区横浜商業高校	0.006	0	0	0.011	○
栄区犬山小学校	0.005	3	0	0.010	○
緑区三保小学校	0.005	0	0	0.009	○
青葉区総合庁舎	0.006	0	0	0.011	○
都筑区総合庁舎	0.007	0	0	0.013	○
泉区総合庁舎	0.006	0	0	0.009	○
平均	0.006	-	-	0.012	-

表 2 - 2 二酸化硫黄濃度の経年変化 (年平均値)
(一般環境大気測定局)

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
鶴見区潮田交流プラザ	0.009	0.009	0.011	0.008	0.009	0.008	0.008	0.009	0.008	0.008
神奈川区総合庁舎	0.009	0.010	0.010	0.008	0.008	0.007	0.009	0.009	0.008	0.008
港北区総合庁舎	0.008	0.008	0.008	0.007	0.007	0.007	0.007	0.008	0.007	0.007
中区加曽台	0.010	0.010	0.010	0.009	0.009	0.009	0.010	0.010	0.008	0.009
磯子区総合庁舎	0.009	0.009	0.009	0.007	0.008	0.007	0.008	0.009	0.008	0.008
保土ヶ谷区桜丘高校	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005	0.005	0.006	0.006	0.006	0.006
西区平沼小学校	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006
金沢区長浜	0.007	0.006	0.007	0.006	0.006	0.005	0.006	0.007	0.006	0.006
鶴見区生麦小学校	0.009	0.009	0.008	0.008	0.008	0.007	0.009	0.008	0.007	0.007
中区本牧	0.009	0.009	0.009	0.008	0.009	0.007	0.009	0.010	0.009	0.007
戸塚区汲沢小学校	0.005	0.005	0.005	0.004	0.005	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005
港南区野庭中学校	0.007	0.007	0.006	0.005	0.006	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006
旭区鶴ヶ峯小学校	0.006	0.007	0.006	0.005	0.005	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006
瀬谷区南瀬谷小学校	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005	0.006	0.006	0.007	0.005	0.005
南区横浜商業高校	0.007	0.007	0.008	0.006	0.006	0.006	0.007	0.007	0.006	0.006
栄区犬山小学校	0.006	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.006	0.006	0.005	0.005
緑区三保小学校	—	0.005	0.006	0.005	0.005	0.005	0.005	0.006	0.005	0.005
青葉区総合庁舎	—	0.006	0.007	0.005	0.006	0.007	0.007	0.007	0.006	0.006
都筑区総合庁舎	—	0.007	0.008	0.007	0.007	0.006	0.007	0.008	0.007	0.007
泉区総合庁舎	—	—	—	0.006	0.006	0.005	0.007	0.007	0.006	0.006
平均	0.007	0.007	0.008	0.006	0.007	0.006	0.007	0.008	0.007	0.006

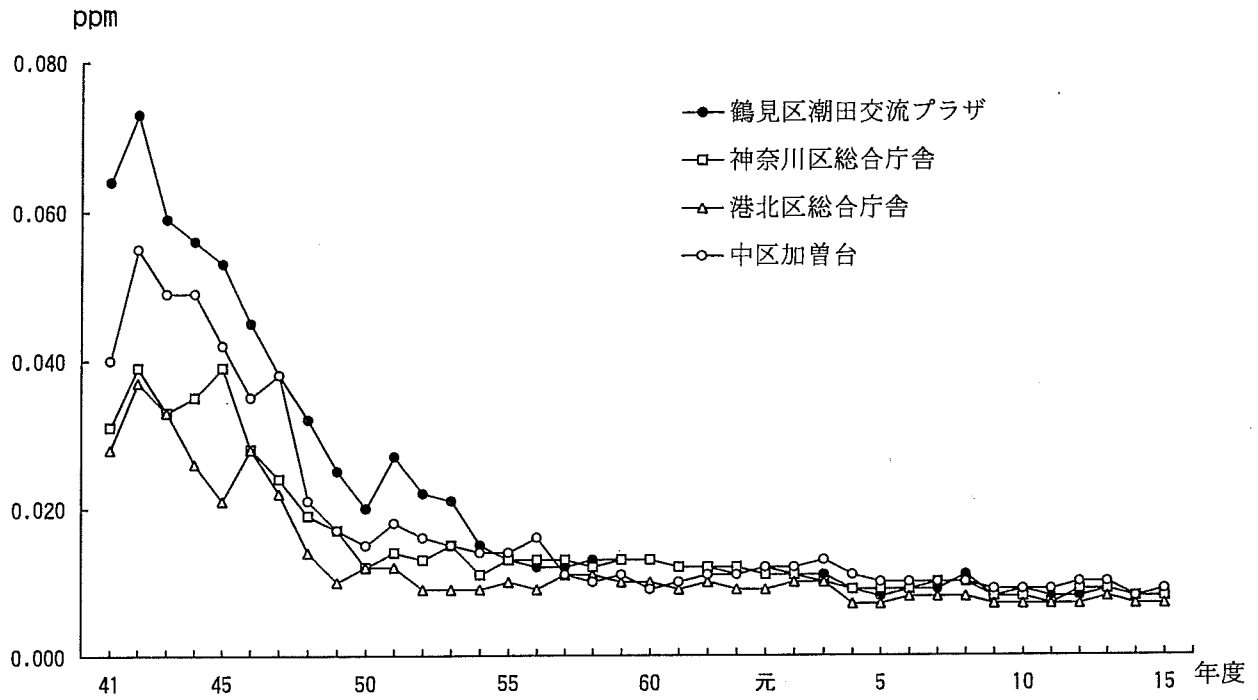


図 2 継続4局における二酸化硫黄濃度の経年変化 (年平均値)

表3-1 二酸化窒素年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成15年度

測定局	年平均値	日平均値が0.06ppmを超えた日数と割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	98%値評価による環境基準の適否 適○ 否×
	(ppm)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	
鶴見区潮田交流プラザ	0.030	1	0.3	0.054	0	○
神奈川区総合庁舎	0.031	0	0.0	0.053	0	○
港北区総合庁舎	0.029	1	0.3	0.052	0	○
中区加曽台	0.031	2	0.5	0.056	0	○
磯子区総合庁舎	0.029	0	0.0	0.051	0	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.026	0	0.0	0.048	0	○
西区平沼小学校	0.028	0	0.0	0.050	0	○
金沢区長浜	0.020	0	0.0	0.042	0	○
鶴見区生麦小学校	0.028	0	0.0	0.050	0	○
中区本牧	0.025	0	0.0	0.045	0	○
戸塚区汲沢小学校	0.023	0	0.0	0.044	0	○
港南区野庭中学校	0.022	0	0.0	0.045	0	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.025	0	0.0	0.046	0	○
瀬谷区南瀬谷小学校	0.024	0	0.0	0.045	0	○
南区横浜商業高校	0.027	0	0.0	0.046	0	○
栄区犬山小学校	0.023	1	0.3	0.051	0	○
緑区三保小学校	0.024	0	0.0	0.044	0	○
青葉区総合庁舎	0.028	0	0.0	0.045	0	○
都筑区総合庁舎	0.028	0	0.0	0.051	0	○
泉区総合庁舎	0.023	0	0.0	0.044	0	○
平均	0.026	-	-	0.048	-	-

表3-2 二酸化窒素濃度の経年変化（年平均値）
（一般環境大気測定局）

(ppm)

測定局 \ 年度	平成 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
鶴見区潮田交流プラザ	0.037	0.038	0.037	0.038	0.037	0.033	0.036	0.036	0.032	0.030
神奈川区総合庁舎	0.040	0.037	0.037	0.038	0.039	0.036	0.037	0.030	0.031	0.031
港北区総合庁舎	0.037	0.037	0.037	0.036	0.036	0.033	0.033	0.034	0.032	0.029
中区加曽台	0.031	0.032	0.033	0.033	0.035	0.032	0.033	0.034	0.032	0.031
磯子区総合庁舎	0.037	0.035	0.033	0.037	0.039	0.035	0.034	0.029	0.029	0.029
保土ヶ谷区桜丘高校	0.032	0.033	0.031	0.032	0.033	0.030	0.031	0.032	0.026	0.026
西区平沼小学校	0.036	0.036	0.036	0.035	0.036	0.033	0.033	0.034	0.028	0.028
金沢区長浜	0.026	0.024	0.025	0.024	0.026	0.022	0.022	0.021	0.021	0.020
鶴見区生麦小学校	0.037	0.036	0.036	0.035	0.036	0.027	0.028	0.029	0.028	0.028
中区本牧	0.031	0.031	0.030	0.029	0.032	0.023	0.026	0.024	0.026	0.025
戸塚区汲沢小学校	0.027	0.026	0.029	0.028	0.029	0.022	0.021	0.022	0.023	0.023
港南区野庭中学校	0.028	0.027	0.028	0.028	0.029	0.022	0.022	0.023	0.023	0.022
旭区鶴ヶ峯小学校	0.029	0.031	0.031	0.030	0.030	0.023	0.023	0.023	0.025	0.025
瀬谷区南瀬谷小学校	0.032	0.032	0.033	0.032	0.031	0.024	0.023	0.023	0.025	0.024
南区横浜商業高校	0.034	0.032	0.033	0.030	0.033	0.028	0.028	0.027	0.027	0.027
栄区犬山小学校	0.025	0.024	0.027	0.026	0.028	0.025	0.025	0.025	0.025	0.023
緑区三保小学校	—	0.028	0.028	0.027	0.028	0.024	0.026	0.027	0.025	0.024
青葉区総合庁舎	—	0.035	0.035	0.033	0.033	0.030	0.031	0.031	0.030	0.028
都筑区総合庁舎	—	0.031	0.033	0.032	0.032	0.029	0.031	0.031	0.030	0.028
泉区総合庁舎	—	—	—	0.028	0.030	0.027	0.028	0.029	0.025	0.023
平均	0.032	0.032	0.032	0.032	0.033	0.028	0.029	0.028	0.027	0.026

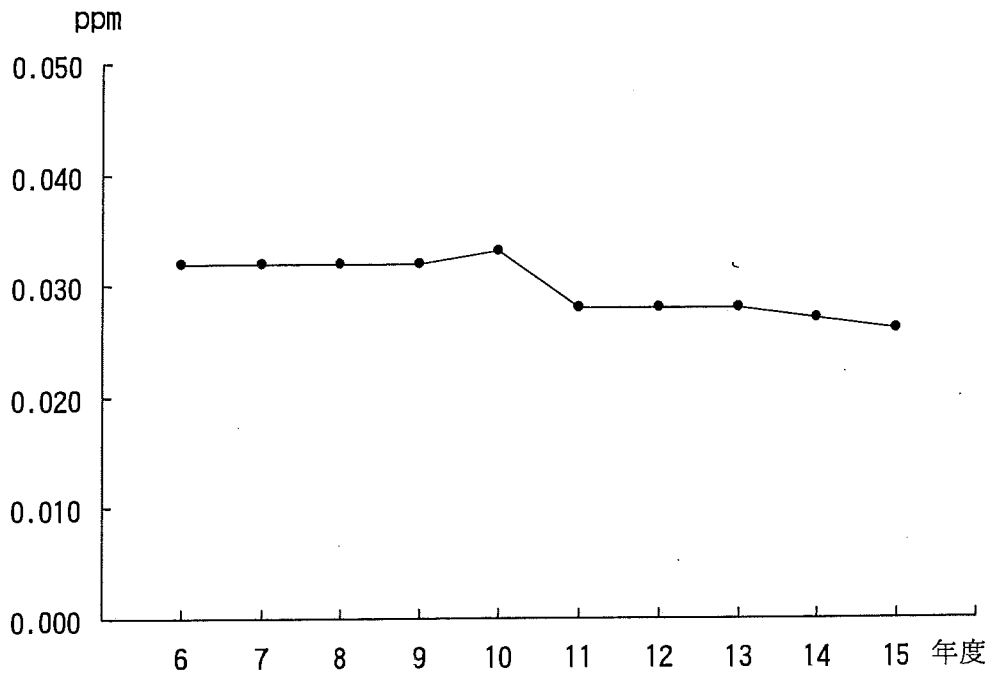


図3-1 二酸化窒素濃度の経年変化 (一般局10年継続16局年平均値)

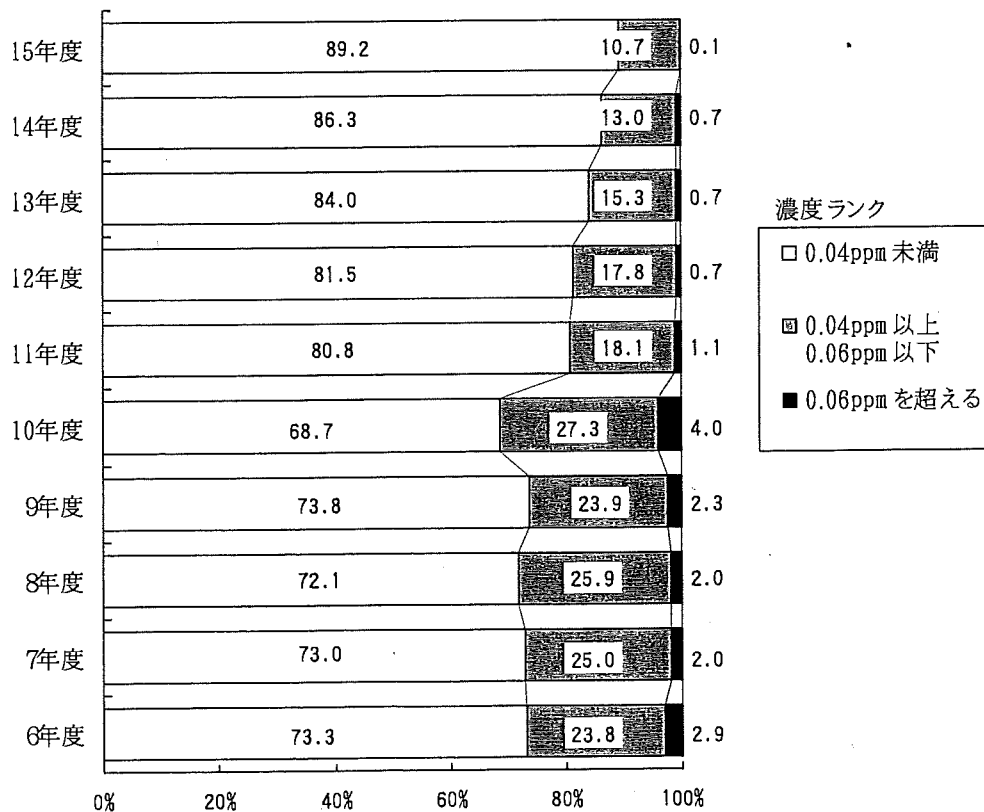


図3-2 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (一般局10年継続16局平均)

表3-3 二酸化窒素年間測定結果
(自動車排出ガス測定局)

平成15年度

測定局	年平均値	日平均値が0.06ppmを超えた日数と割合		日平均値の年間98%値	98%値評価による日平均値が0.06ppmを超えた日数	98%値評価による環境基準の適否 適○ 否×
	(ppm)	(日)	(%)	(ppm)	(日)	
鶴見区下末吉小学校	0.033	3	0.8	0.056	0	○
西区浅間下交差点	0.041	6	1.6	0.060	0	○
港南中学校	0.034	2	0.5	0.055	0	○
戸塚区矢沢交差点	0.031	0	0.0	0.047	0	○
旭区都岡小学校	0.037	7	1.9	0.060	0	○
青葉台	0.039	7	1.9	0.060	0	○
環境都筑工場前	0.028	0	0.0	0.048	0	○
磯子区滝頭	0.037	14	3.9	0.063	7	×
平均	0.035	-	-	0.056	-	-

表3-4 二酸化窒素濃度の経年変化(年平均値)
(自動車排出ガス測定局)

(ppm)

測定局 \ 年度	平成6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
鶴見区下末吉小学校	0.041	0.043	0.043	0.043	0.044	0.040	0.041	0.043	0.040	0.033
西区浅間下交差点	0.051	0.054	0.053	0.052	0.054	0.050	0.047	0.050	0.048	0.041
港南中学校	0.038	0.039	0.039	0.039	0.040	0.038	0.037	0.037	0.035	0.034
戸塚区矢沢交差点	0.040	0.039	0.041	0.039	0.040	0.031	0.030	0.031	0.031	0.031
旭区都岡小学校	0.042	0.041	0.042	0.042	0.043	0.040	0.039	0.040	0.038	0.037
青葉台	0.039	0.040	0.041	0.041	0.042	0.040	0.040	0.041	0.039	0.039
環境都筑工場前	0.036	0.034	0.034	0.032	0.034	0.032	0.033	0.033	0.030	0.028
磯子区滝頭	0.052	0.052	0.049	0.047	0.047	0.043	0.044	0.045	0.044	0.037
平均	0.042	0.043	0.043	0.042	0.043	0.039	0.039	0.040	0.038	0.035

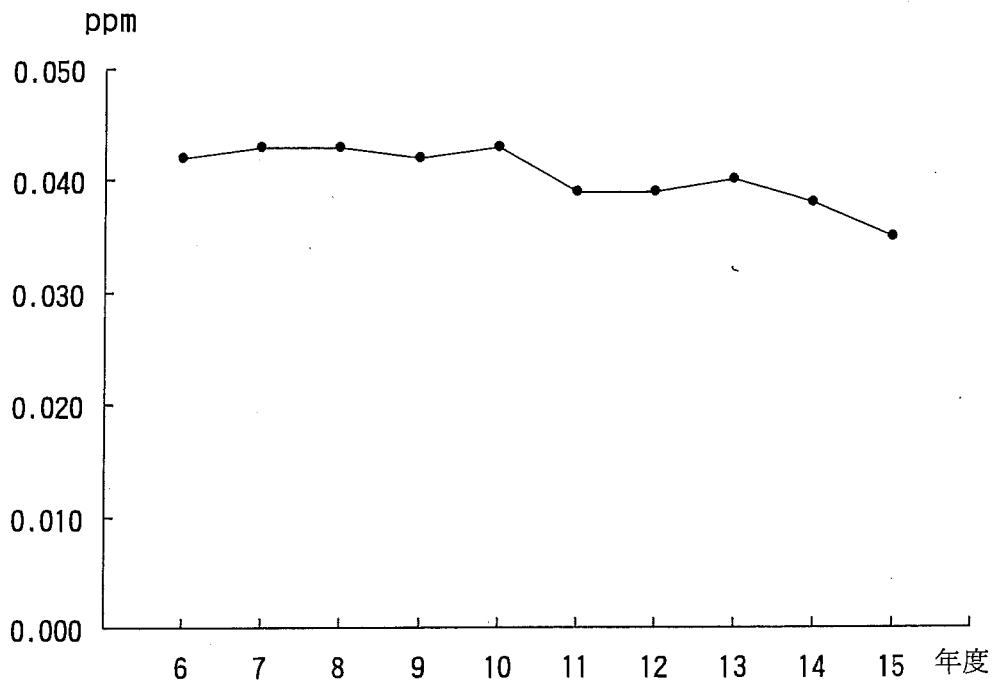


図3-3 二酸化窒素濃度の経年変化 (自排局全8局年平均値)

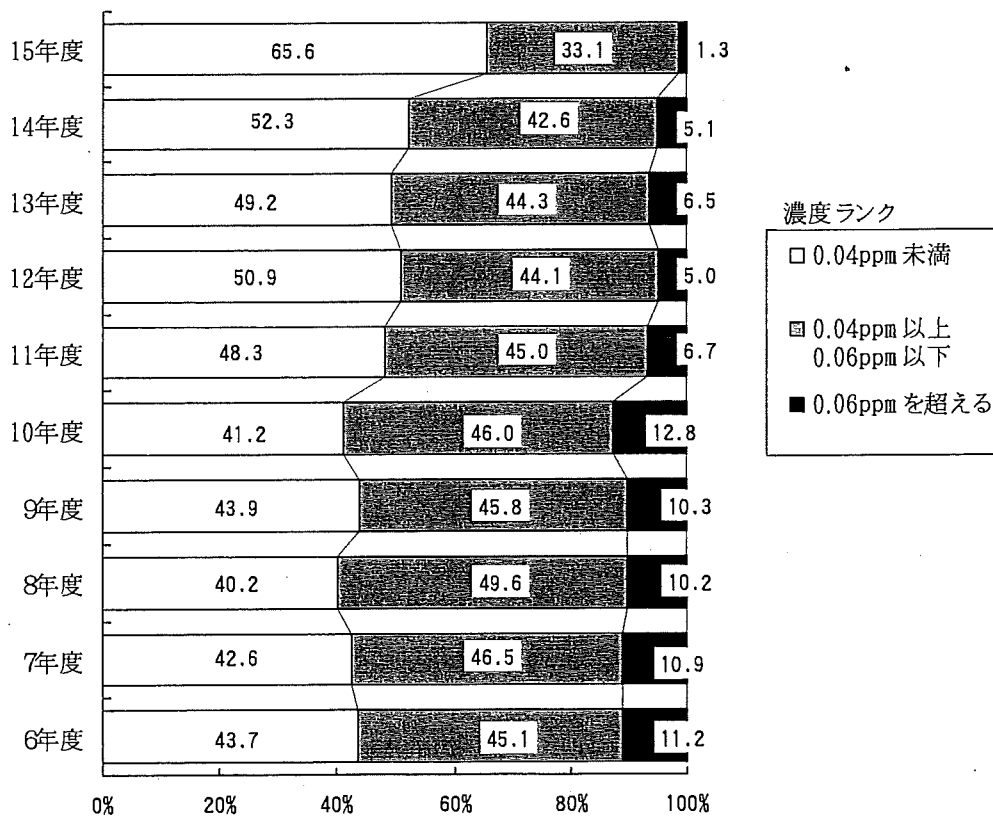


図3-4 二酸化窒素日平均濃度のランク別割合 (自排局全8局平均)

表4-1 浮遊粒子状物質年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成15年度

測定局	年平均値	1時間値が0.2 mg/m ³ を超えた 時間数	日平均値が0.1 mg/m ³ を超えた日数とその 割合		日平均値の 2%除外値	長期的評価による 環境基準の適否 (数値は超過日数)
	(mg/m ³)	(時間)	(日)	(%)	(mg/m ³)	(適○, 否×)
鶴見区潮田交流プラザ	0.037	19	8	2.2	0.101	× 6
神奈川区総合庁舎	0.034	11	4	1.1	0.090	× 2 注*
港北区総合庁舎	0.032	6	2	0.6	0.077	× 2 注*
中区加曾台	0.032	3	1	0.3	0.079	○
磯子区総合庁舎	0.026	0	1	0.3	0.063	○
保土ヶ谷区桜丘高校	0.028	0	1	0.3	0.070	○
西区平沼小学校	0.031	0	1	0.3	0.072	○
金沢区長浜	0.022	0	0	0.0	0.050	○
鶴見区生麦小学校	0.034	3	3	0.8	0.077	○
中区本牧	0.032	1	0	0.0	0.065	○
戸塚区汲沢小学校	0.031	4	2	0.6	0.072	× 2 注*
港南区野庭中学校	0.031	3	0	0.0	0.071	○
旭区鶴ヶ峯小学校	0.032	5	2	0.5	0.073	× 2 注*
瀬谷区南瀬谷小学校	0.038	14	5	1.4	0.084	× 4 注*
南区横浜商業高校	0.030	1	1	0.3	0.075	○
栄区犬山小学校	0.024	0	1	0.3	0.059	○
緑区三保小学校	0.035	2	3	0.8	0.082	× 2 注*
青葉区総合庁舎	0.029	0	1	0.3	0.065	○
都筑区総合庁舎	0.026	0	1	0.3	0.065	○
泉区総合庁舎	0.029	3	2	0.5	0.066	○
平均	0.031	—	—	—	0.073	—

注 *印の測定局は、日平均値の2%除外値は0.100 mg/m³以下であるが、環境基準を超える日が2日以上連続したため、環境基準に不適合と評価される。

表4-2 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（年平均値）
（一般環境大気測定局）

(mg/m³)

測定局 \ 年度	平成 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
鶴見区潮田交流プラザ	0.044	0.042	0.045	0.041	0.039	0.032	0.035	0.033	0.035	0.037
神奈川区総合庁舎	0.048	0.042	0.040	0.039	0.038	0.031	0.035	0.032	0.029	0.034
港北区総合庁舎	0.049	0.042	0.041	0.041	0.040	0.033	0.036	0.035	0.031	0.032
中区加曽台	0.037	0.035	0.034	0.033	0.035	0.029	0.033	0.031	0.029	0.032
磯子区総合庁舎	0.042	0.038	0.037	0.036	0.039	0.031	0.031	0.030	0.028	0.026
保土ヶ谷区桜丘高校	0.041	0.041	0.039	0.038	0.037	0.031	0.035	0.033	0.030	0.028
西区平沼小学校	0.047	0.049	0.045	0.043	0.043	0.038	0.038	0.039	0.033	0.031
金沢区長浜	0.033	0.030	0.029	0.029	0.028	0.024	0.027	0.025	0.024	0.022
鶴見区生麦小学校	0.050	0.046	0.044	0.042	0.042	0.036	0.038	0.037	0.034	0.034
中区本牧	0.037	0.036	0.033	0.033	0.033	0.026	0.031	0.029	0.032	0.032
戸塚区汲沢小学校	0.049	0.046	0.043	0.042	0.040	0.036	0.038	0.038	0.032	0.031
港南区野庭中学校	0.036	0.034	0.032	0.031	0.030	0.023	0.027	0.027	0.030	0.031
旭区鶴ヶ峯小学校	0.052	0.057	0.048	0.041	0.036	0.026	0.029	0.032	0.031	0.032
瀬谷区南瀬谷小学校	0.049	0.045	0.043	0.042	0.040	0.037	0.037	0.037	0.038	0.038
南区横浜商業高校	0.047	0.042	0.040	0.040	0.041	0.034	0.038	0.036	0.033	0.030
栄区犬山小学校	0.036	0.033	0.031	0.030	0.031	0.025	0.029	0.027	0.026	0.024
緑区三保小学校	—	0.041	0.041	0.038	0.038	0.032	0.034	0.034	0.033	0.035
青葉区総合庁舎	—	0.045	0.043	0.043	0.041	0.035	0.036	0.035	0.031	0.029
都筑区総合庁舎	—	0.042	0.040	0.039	0.037	0.031	0.033	0.031	0.029	0.026
泉区総合庁舎	—	—	—	0.039	0.039	0.033	0.034	0.034	0.032	0.029
平均	0.043	0.041	0.039	0.038	0.037	0.031	0.034	0.033	0.031	0.031

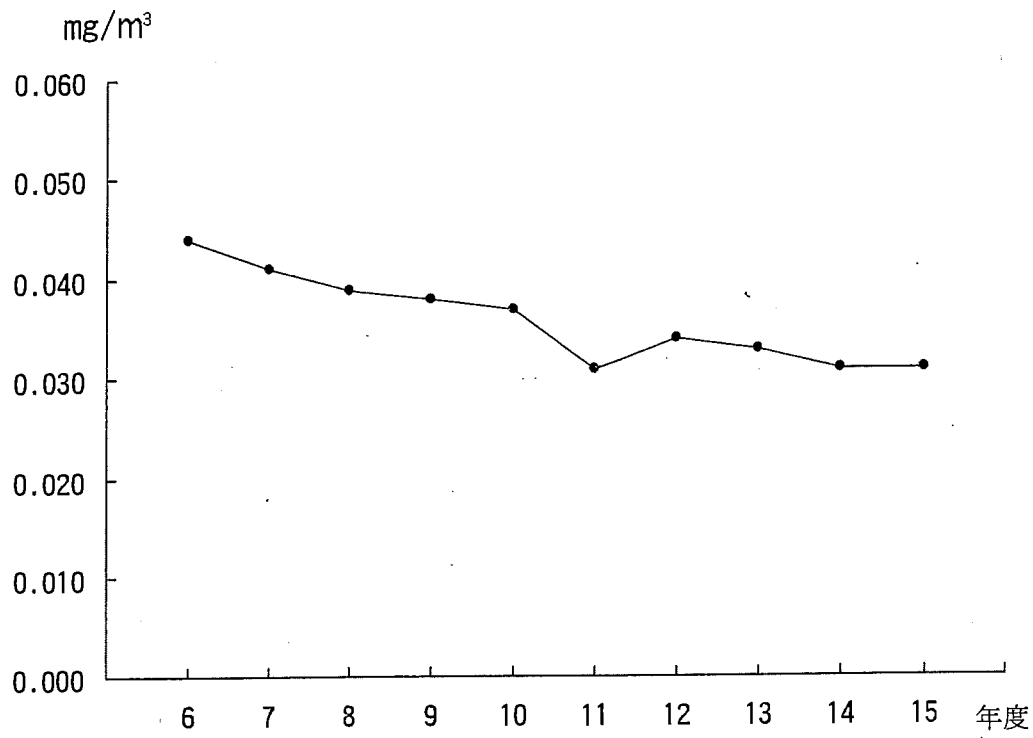


図4-1 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（一般局10年継続16局年平均値）

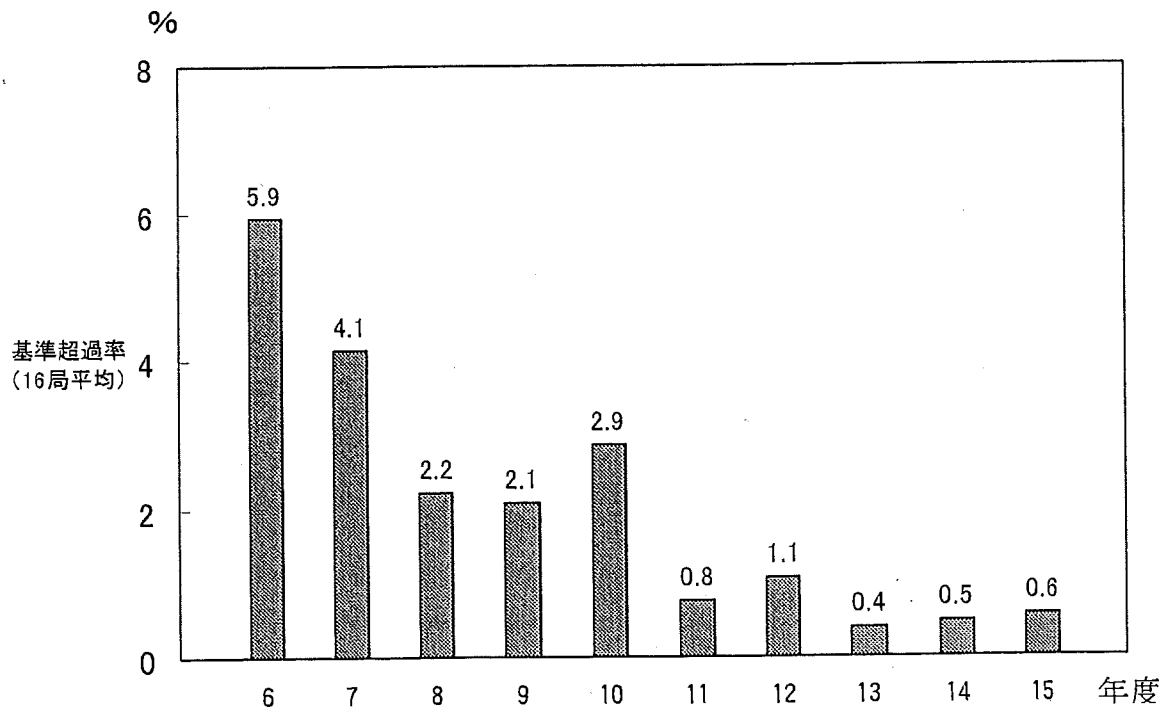


図4-2 日平均値が環境基準(0.1mg/m³)を超えた日の年間比率の推移（一般局継続16局平均）

表4-3 浮遊粒子状物質年間測定結果
(自動車排出ガス測定局)

平成15年度

測定局	年平均値	1時間値が0.2 mg/m ³ を超えた 時間数	日平均値が0.1mg/m ³ を超えた日数とその 割合		日平均値の 2%除外値	長期的評価による 環境基準の適否 (数値は超過日数)
	(mg/m ³)	(時間)	(日)	(%)	(mg/m ³)	(適○, 否×)
鶴見区下末吉小学校	0.036	6	5	1.4	0.084	× 2 注*
西区浅間下交差点	0.038	11	3	0.8	0.091	× 2 注*
港南中学校	0.033	6	4	1.1	0.084	× 4 注*
戸塚区矢沢交差点	0.033	5	2	0.5	0.075	× 2 注*
旭区都岡小学校	0.038	7	3	0.8	0.087	× 2 注*
青葉台	0.042	0	2	0.5	0.085	○
環境都筑工場前	0.028	1	0	0.0	0.072	○
磯子区滝頭	0.035	6	1	0.3	0.081	○
平均	0.035	-	-	-	0.082	-

注 *印の測定局は、日平均値の2%除外値は0.100 mg/m³以下であるが、環境基準を超える日が2日以上連続したため、環境基準に不適合と評価される。

表4-4 浮遊粒子状物質濃度の経年変化(年平均値)
(自動車排出ガス測定局)

(mg/m³)

測定局	年度									
	平成6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
鶴見区下末吉小学校	0.055	0.056	0.057	0.055	0.051	0.039	0.041	0.039	0.036	0.036
西区浅間下交差点	0.081	0.074	0.074	0.074	0.074	0.058	0.059	0.055	0.045	0.038
港南中学校	0.050	0.046	0.044	0.042	0.042	0.035	0.037	0.034	0.031	0.033
戸塚区矢沢交差点	0.052	0.048	0.045	0.045	0.044	0.038	0.038	0.036	0.034	0.033
旭区都岡小学校	0.066	0.061	0.058	0.056	0.053	0.045	0.047	0.044	0.038	0.038
青葉台	0.069	0.066	0.062	0.055	0.055	0.047	0.047	0.043	0.040	0.042
環境都筑工場前	0.056	0.059	0.053	0.050	0.046	0.039	0.039	0.036	0.033	0.028
磯子区滝頭	0.096	0.086	0.078	0.074	0.068	0.048	0.048	0.048	0.041	0.035
平均	0.066	0.062	0.059	0.056	0.054	0.044	0.045	0.042	0.037	0.035

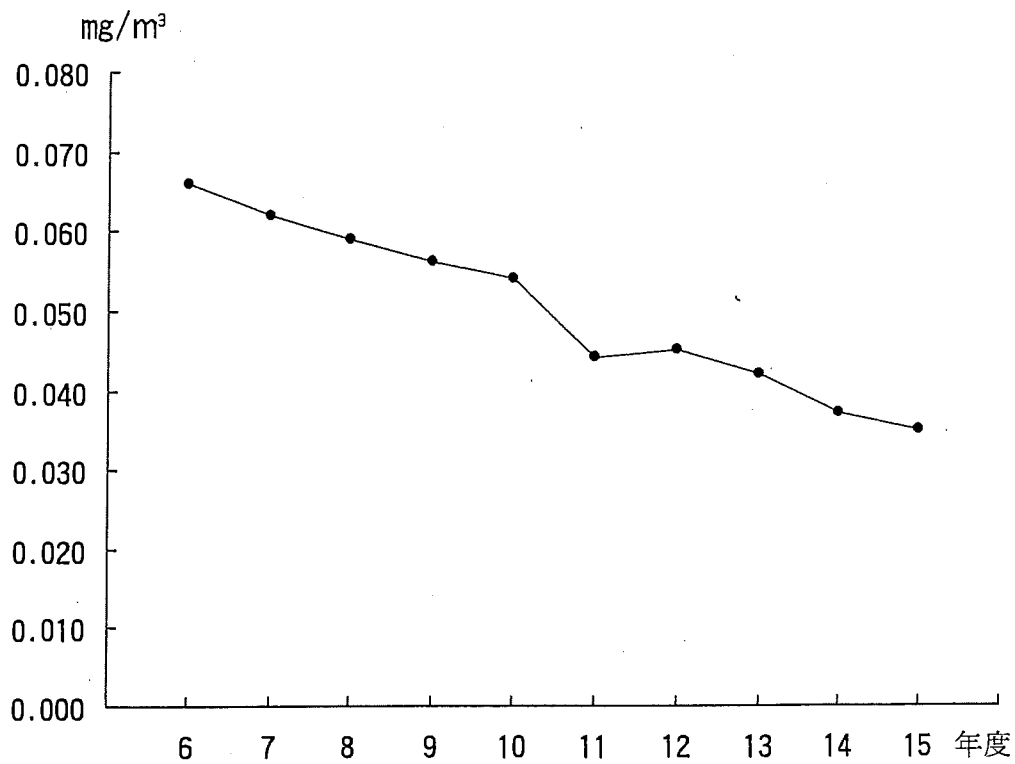


図4-3 浮遊粒子状物質濃度の経年変化（自排局全8局年平均値）

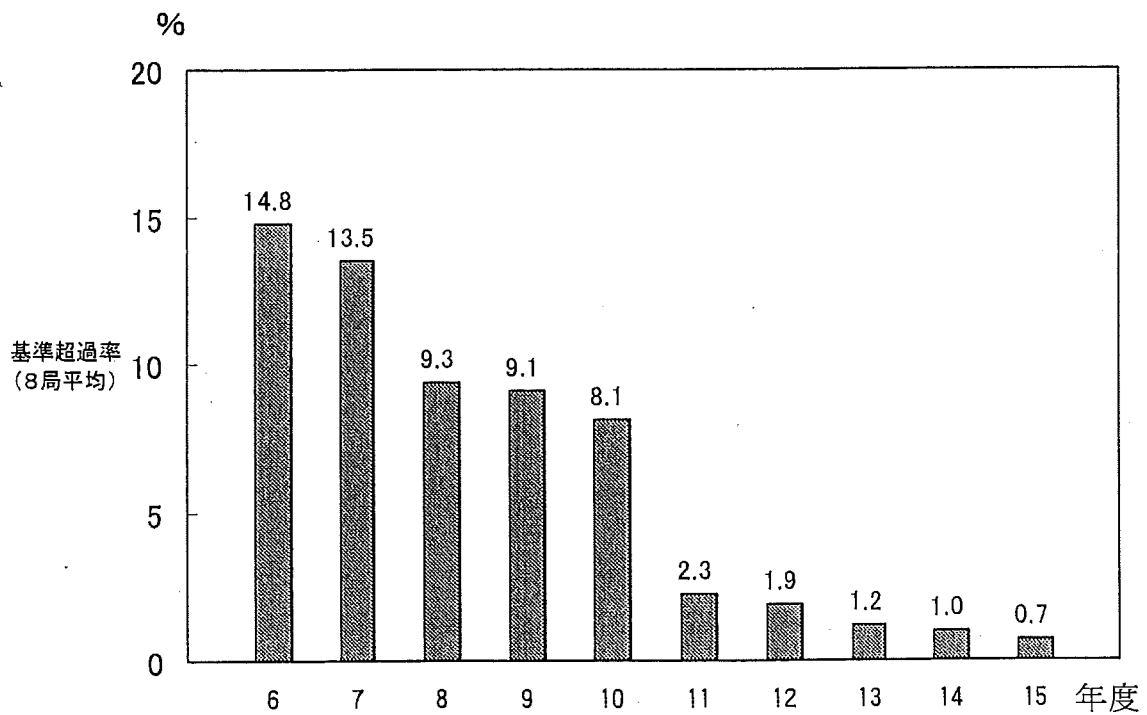


図4-4 日平均値が環境基準(0.1mg/m³)を超えた日の年間比率の推移（自排局全8局平均）

表5-1 一酸化炭素年間測定結果
(自動車排出ガス測定局)

平成15年度

測定局	年平均値	8時間値が20ppm を超えた回数	日平均値が10ppm を超えた日数	日平均値 の2%除 外値	長期的評価によ る環境基準の適 否
	(ppm)	(回)	(日)	(ppm)	(適○、否×)
西区浅間下交差点	1.3	0	0	2.4	○
港南中学校	0.7	0	0	1.5	○
戸塚区矢沢交差点	0.7	0	0	1.5	○
旭区都岡小学校	0.9	0	0	1.8	○
青葉台	0.8	0	0	1.6	○
平均	0.9	-	-	1.8	-

表5-2 一酸化炭素濃度の経年変化(年平均値)
(自動車排出ガス測定局)

(ppm)

測定局	年度	平成 6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
	西区浅間下交差点		2.1	2.1	2.1	2.0	2.0	1.7	1.6	1.6	1.4
港南中学校		1.2	1.1	1.1	1.0	1.0	0.9	0.8	0.7	0.8	0.7
戸塚区矢沢交差点		1.1	1.0	1.0	1.0	1.0	0.8	0.8	0.8	0.8	0.7
旭区都岡小学校		1.6	1.5	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1	1.1	1.0	0.9
青葉台		1.3	1.2	1.2	1.1	1.1	0.9	0.9	1.0	0.9	0.8
平均		1.5	1.4	1.4	1.3	1.3	1.1	1.0	1.0	1.0	0.9

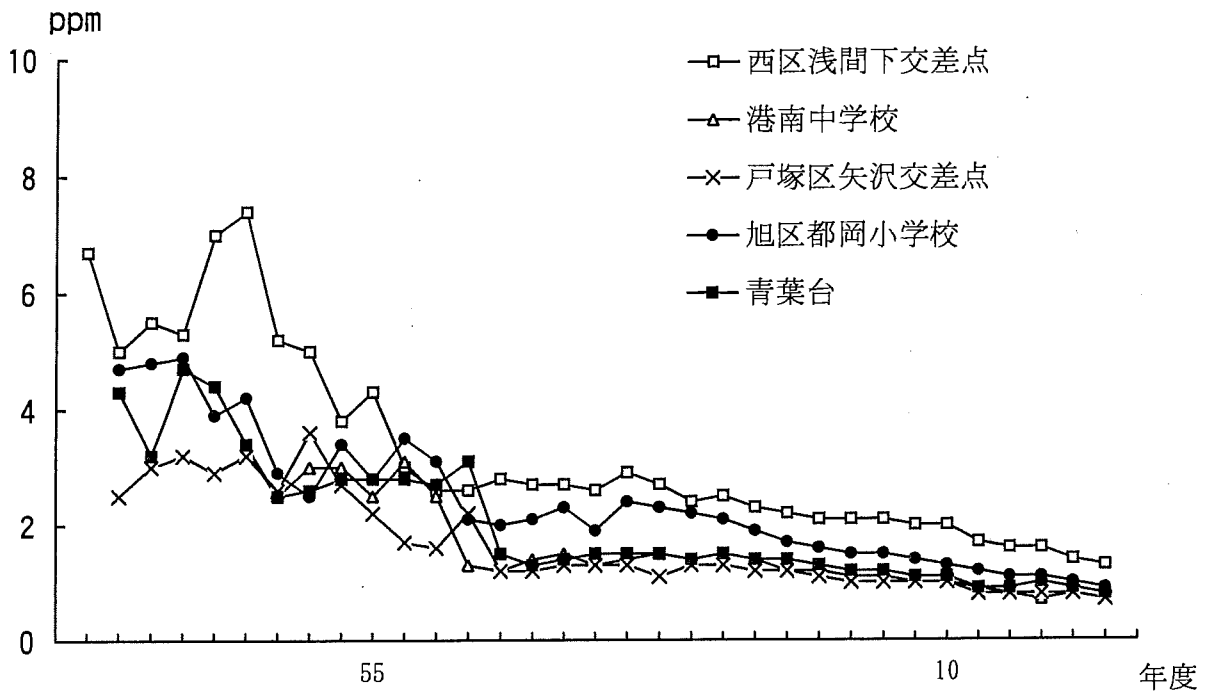


図 5 一酸化炭素濃度の経年変化 (自排局・年平均値)

表6-1 光化学オキシダント年間測定結果
(一般環境大気測定局)

平成15年度

測定局	昼間の1時間値の年平均値	昼間の1時間値が0.06ppmを超えた日数と時間数		昼間の1時間値が0.12ppm以上の日数と時間数		昼間の1時間値の最高値	環境基準の適否 (適○、否×)
	(ppm)	(日)	(時間)	(日)	(時間)	(ppm)	
鶴見区潮田交流プラザ	0.021	34	111	1	1	0.125	×
神奈川区総合庁舎	0.022	53	211	1	1	0.130	×
港北区総合庁舎	0.022	39	157	2	2	0.179	×
磯子区総合庁舎	0.024	56	200	1	1	0.139	×
保土ヶ谷区桜丘高校	0.025	55	260	0	0	0.115	×
西区平沼小学校	0.023	46	224	2	2	0.126	×
金沢区長浜	0.029	81	382	1	1	0.120	×
鶴見区生麦小学校	0.023	49	192	0	0	0.112	×
中区本牧	0.025	55	224	0	0	0.117	×
戸塚区汲沢小学校	0.029	79	378	0	0	0.115	×
港南区野庭中学校	0.028	78	359	1	1	0.121	×
旭区鶴ヶ峯小学校	0.026	64	286	2	2	0.129	×
瀬谷区南瀬谷小学校	0.025	61	256	1	1	0.121	×
南区横浜商業高校	0.026	82	390	4	4	0.140	×
栄区犬山小学校	0.031	106	525	2	2	0.128	×
緑区三保小学校	0.028	85	416	3	5	0.134	×
青葉区総合庁舎	0.023	54	229	2	4	0.143	×
都筑区総合庁舎	0.025	60	278	4	8	0.151	×
泉区総合庁舎	0.025	44	177	0	0	0.108	×
平均	0.025	—	—	—	—	—	—

表6-2 平成15年度光化学スモッグ注意報発令状況（横浜地域）

回数	発令日 (曜日)	措置 種類	発令時刻	市内Ox最高値 (ppm)	市内届出 被害者数	神奈川県内他地域 発令状況
1	8月21日 (木)	注意報	12:20~15:00	0.140 横浜商業(12時)	0人	川崎
2	8月22日 (金)	注意報	13:20~15:10	0.143 青葉庁舎(14時)	0人	川崎、県央
3	9月2日 (火)	注意報	13:20~16:00	0.132 都筑庁舎(15時)	0人	湘南、川崎、西湘
4	9月3日 (水)	注意報	12:20~15:00	0.151 都筑庁舎(13時)	0人	川崎

表6-3 光化学スモッグ注意報発令回数及び届出被害者数の推移

項目	年度																	
	昭和 46	47	48	49	50	51	52	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63
注意報発令回数	8	10	20	9	12	7	3	11	4	3	8	2	3	4	6	2	12	2
警報発令回数	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
届出被害者数(人)	2337	834	1545	205	6175	823	909	61	268	0	454	3	178	65	113	0	136	7

項目	年度														
	平成 元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15
注意報発令回数	2	5	5	10	3	8	11	5	3	4	2	6	8	6	4
警報発令回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
届出被害者数(人)	0	0	340	90	0	12	0	0	0	0	0	4	0	5	0

大気汚染に係わる環境基準と評価方法について

物 質	環 境 基 準	評価方法
二酸化硫黄	1時間値の1日平均値が0.04ppm以下であり、かつ1時間値が0.1ppm以下であること。	長期的評価 *1
二酸化窒素	1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内またはそれ以下であること。	98%値評価 *2
浮遊粒子状物質	1時間値の1日平均値が0.10mg/m ³ 以下であり、かつ、1時間値が0.20mg/m ³ 以下であること。	長期的評価 *1
一酸化炭素	1時間値の1日平均値が10ppm以下であり、かつ、1時間値の8時間平均値が20ppm以下であること。	長期的評価 *1
光化学オキシダント	1時間値が0.06ppm以下であること。	昼間 *3

*1 長期的評価

年間の1日平均値のうち、高いほうから2%の範囲にあるものを除外した後の最高値（2%除外値）を環境基準と比較して評価する。ただし、環境基準を超える日が2日以上連続した場合は、非達成と評価する。

*2 98%値評価

年間の1日平均値のうち、低いほうから98%に相当するものを環境基準に比較して評価する。

*3 昼間

5～20時のデータを対象とする。

表 7 有害大気汚染物質濃度測定結果（平成15年度）
（揮発性有機化合物等）

測定地点 測定項目	鶴見区 潮田交流 プラザ (一般局)	中区 本 牧 (一般局)	緑区 三保小学校 (一般局)	戸塚区 矢沢交差点 (自排局)	磯子区 滝 頭 (自排局)	単位
ベンゼン	1.6	1.5	1.5	2.0	2.7	μg/m ³
トリクロロエチレン	1.0	0.82	0.91	0.60	0.78	
テトラクロロエチレン	0.51	0.36	0.42	0.42	0.37	
ジクロロメタン	2.1	1.3	1.6	1.8	1.3	
アクリロニトリル	0.12	0.081	0.043	0.084	0.086	
塩化ビニルモノマー	0.029	0.037	0.018	0.033	0.041	
クロロホルム	0.17	0.15	0.14	0.15	0.14	
1,2-ジクロロエタン	0.073	0.082	0.075	0.097	0.087	
1,3-ブタジエン	0.29	0.27	0.21	0.39	0.51	
アセトアルデヒド	1.4	1.3	1.4	1.6	1.9	
ホルムアルデヒド	1.9	1.7	1.8	2.2	3.1	
四塩化炭素	0.59	0.58	0.58	0.58	0.56	
1,2-ジクロロプロパン	0.091	0.046	0.044	0.085	0.055	
1,1,1-トリクロロエタン	0.17	0.16	0.16	0.16	0.17	
酸化エチレン	0.10	0.13	0.11	0.11	0.13	
ベンゾ(a)ピレン	0.29	0.29	0.33	0.34	0.39	ng/m ³
ニッケル化合物	8.8	9.4	4.3	5.0	6.2	
バリウム及びその化合物	0.029	0.047	0.024	0.028	0.034	
マンガン及びその化合物	27	43	31	24	25	
クロム及びその化合物	12	8.7	5.8	7.4	9.0	
ヒ素及びその化合物	1.3	1.4	1.2	1.1	1.2	
水銀及びその化合物	1.8	1.8	2.0	1.7	1.9	

環境基準：(年平均値)

ベンゼン	3 μg/m ³ (0.003 mg/m ³) 以下
トリクロロエチレン	200 μg/m ³ (0.2 mg/m ³) 以下
テトラクロロエチレン	200 μg/m ³ (0.2 mg/m ³) 以下
ジクロロメタン	150 μg/m ³ (0.15 mg/m ³) 以下

国の指針値：(年平均値)

アクリロニトリル	2 μg/m ³ (0.002 mg/m ³) 以下
塩化ビニルモノマー	10 μg/m ³ (0.01 mg/m ³) 以下
ニッケル化合物	25 ng Ni/m ³ (0.000025 mg Ni/m ³) 以下
水銀	40 ng Hg/m ³ (0.00004 mg Hg/m ³) 以下

[下表は5月27日発表済み再掲]

表 8 大気環境中ダイオキシン類の測定結果 (平成15年度)

(単位: pg-TEQ/m³)

測定地点	春 15年5月 15日~22日	夏 15年8月 21日~28日	秋 15年11月 13日~20日	冬 16年2月 5日~12日	年平均値
1 鶴見区生麦小学校	0.081	0.034	0.074	0.075	0.066
2 神奈川区総合庁舎	0.079	0.038	0.086	0.059	0.066
3 西区平沼小学校	0.068	0.027	0.067	0.071	0.058
4 中区本牧	0.067	0.029	0.067	0.057	0.055
5 南区横浜商業高校	0.063	0.027	0.072	0.089	0.063
6 港南区野庭中学校	0.054	0.024	0.069	0.052	0.050
7 保土ヶ谷区桜丘高校	0.068	0.029	0.086	0.073	0.064
8 旭区鶴ヶ峯小学校	0.067	0.057	0.074	0.071	0.067
9 磯子区総合庁舎	0.069	0.030	0.080	0.055	0.059
10 金沢区長浜	0.045	0.015	0.071	0.049	0.045
11 港北区総合庁舎	0.062	0.033	0.074	0.060	0.057
12 緑区三保小学校	0.072	0.038	0.078	0.044	0.058
13 青葉区総合庁舎	0.063	0.047	0.091	0.056	0.064
14 都筑区総合庁舎	0.061	0.038	0.071	0.049	0.055
15 戸塚区汲沢小学校	0.059	0.026	0.085	欠測 *1	0.057
16 栄区犬山小学校	0.053	0.017	0.074	0.043	0.047
17 泉区総合庁舎	0.066	0.030	0.097	0.092	0.071
18 瀬谷区南瀬谷小学校	0.061	0.041	0.10	(0.059) *2	0.067
平均値	0.064	0.032	0.079	0.062	0.059

注 *1 操作上のトラブルがあり欠測とします。
*2 操作上のトラブルがあり参考値とします。

単位 pg :ピコグラム。1ピコグラムは、1兆分の1グラム。

TEQ = 「毒性等量」。ダイオキシン類の量を、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い2,3,7,8,-四塩化ジベンゾ-p-ダイオキシン類の量に換算した量として表していることを示す符号です。

環境基準: 複数回の測定値の年平均値で 0.6 pg-TEQ/m³ 以下